

No. 1 図書館クイズについて

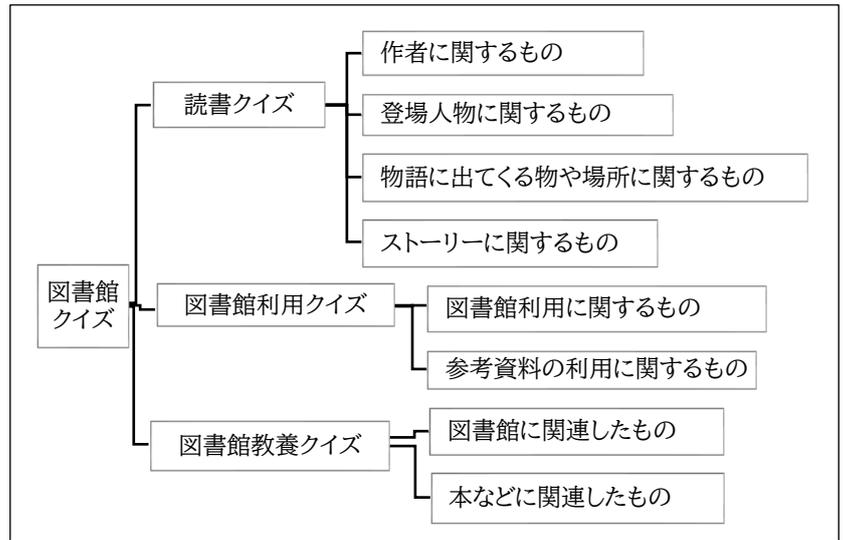
1. 図書館クイズのタイプ

○「図書館クイズ」と呼ばれているものには、いくつかのタイプがある。ここでは次のように整理する。

- (1)「読書クイズ」
- (2)「図書館利用クイズ」
- (3)「図書館教養クイズ」

○これらは、別個にも組み合わせても使える。目的や児童生徒の発達段階に応じて、楽しんで解ける問題を作成して実施しよう。

○上記のほか「年鑑クイズ」(ワークシート)など学習クイズもあるが、それらは「資料・情報活用の支援・指導」に掲載する。



2. 図書館クイズの目的と作成の留意点

(1) 読書クイズ

- 読書クイズは、児童生徒と本の世界を結び付けるためのものである。
- クイズを楽しみながら、自分がこれまでに読んだ本について思い出したり、興味関心を抱くような本の存在を知ったりすることができる。読書意欲を刺激し高め、読書領域を広げることに繋げたい。
- クイズを作るときには、児童生徒が物語の内容を確認したり、すぐに本を借りたいという気持ちに対応したりできるように、自館に所蔵されている本から出題するのが原則である。児童生徒にぜひ読んでもらいたい本を使ってクイズ問題を作る。推薦図書や必読図書を設定している学校では、ぜひそれらの本のなかから問題を作ってみよう。
- 問題例を提示して、教職員や児童生徒、図書委員に問題を作ってもらおうのも一方法である。
- 問題の回答方法は多様である。例えば、答えを考えさせるもの、選択肢から選ばせるもの、穴埋め式などがある。文章形式だけではなく、「クロスワード」や「ビンゴ」といった形式もある。「読書へのアニメーション」も定型の方法が確立しているが、読書クイズの範疇と考えてよいだろう。

(2) 図書館利用クイズ

- 図書館の利用と参考資料の利用のための知識と技術、つまり基礎的な情報活用能力を身に付けるためのものである。「新着書架から好きな本を選ぶ」ことで図書館内の特定の場所を意識させたり、例えば「米のとれ高」について調べるためにはどの参考図書を使うかを考えさせたりする。
- とくに、図書館や読書から遠ざかっている子どもたちを念頭において、誰にでも答えられる問題(例えば、「うちの学校図書館には本は何冊くらいあると思いますか」や「図書館ではポーッと置いてもいいですか」など)を入れておきたい。児童生徒が自分の居場所と感じられるようなメッセージを伝えたい。これらの問いはオリエンテーションの導入にも使える。

(3) 図書館教養クイズ

- 図書館や本についての歴史や最新事情など全般的知識を問い、図書館や本、情報活用能力への関心を高めてもらうことを目的としている。
- 図書委員に作成を依頼すると喜んで考えてくれるかもしれない。図書館情報学関連の本や一般教養書などを参考に出題するとよい。

3. 図書館クイズの利用

- 図書館クイズは、場合に応じて司書教諭や学校司書、教員が出題する。
- 読書クイズや図書館利用クイズはオリエンテーションや「図書の時間」で使用することができるが、その時間の目的を明確にしてそれに適したクイズを提供することが必要である。
- 山形県鶴岡市立朝陽第一小学校(2002年度に全国学校図書館協議会の学校図書館大賞を受賞)では、児童の検索能力を育てるために、3～6年生の各学年10枚ずつのクイズ問題を作成した。各学年の発達段階と授業内容に合わせて検討し改訂を重ねたという。「クイズは何を見て調べてもよいが、ほかの人の答えを見たり聞いたりしてはいけない」「どう調べたらよいかわからない時は図書館の先生や担任の先生に聞く」「できたら先生に出して、次の番号の図書館クイズに挑戦する」というルールで、間違えたところは×にしないで、一言ヒントを添えて問題を返し、すべて○になるまで何度でも調べ直しのチャンスを与える、という方法である。10枚できたらチャレンジ大賞がもらえる。
『図書館へ行こう！図書館クイズ：知識と情報の宝庫＝図書館活用術』(山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編 国土社 2007)、『図書館へ行こう！図書館クイズⅡ：魅力的な図書委員会の活動・図書館行事のアイデア集』(五十嵐絹子編著 国土社 2011)に小学生・中学生向けのクイズ問題例等が掲載されている。
- 図書館クイズは授業の導入として用いることもできる。「朝の会」や「帰りの会」にも口頭でクイズをすることもできる。
- クイズを導入にして読み聞かせをしたりブックトークをしたりすることもできる。また読み聞かせ後にクイズを出し、今度はちょっと難しいよ、と言って読んでもらいたい本のクイズを出すなど、段階的に本への関心が高まるように工夫しよう。
- 図書館クイズは、図書館カウンターにおいておき、自由に取り組めるようにしておく。回答箱を用意して回収することもできる。その場合は一定期間を置いて正解を発表する。また、読書まつりなどの行事のときに図書委員がクイズを出題してもよいし、クラス対抗で読書クイズ大会を行うこともできる。
- クイズ問題は自館の蔵書で解ける問題でなくてはならない。特に図書館利用クイズは、問題が自校の図書館蔵書で回答できるかどうかを確認するために、図書委員に協力してもらうとよい。さらに、教職員にも解いてもらうと、教職員も知らず知らずのうちに図書館の達人に！

4. 検索のコンテスト

以前、ある学校で、「検索のコンテスト」を実施していた。クラス代表の3人グループが図書館に集まる。各グループにノートパソコン1台が手渡され、インターネットや館内資料を利用して1時間で問題を解く。問題はその学校の各教科の教員が教科に関連するものを全部で60問作成する。

「はじめ！」の声と同時にシーンとなり、インターネットで解ける問題、漢和辞典で解ける問題、と見当をつけて3人が分担して問題に取り組む。書架の前で本を広げて目次を確認している生徒の姿が印象的であった。こうして一番多く正確に解答したグループが表彰される。